

理事長挨拶

学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎



戦後、創立者加計勉は、一面の焼け野原となった広島の中で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

今日、私共、教育機関を取り巻く環境は、18歳人口の減少をはじめとして、グローバル化、多様化の波にさらされており、さらに、世界的経済不況の煽りを受け、非常に厳しい状況であるといえます。しかしながら、常に時代を先取りした特色ある教育と、8設置校の多様な学校種による連携は、全国でも類を見ないものであり、これまで培ってきた伝統と資源を有機的に結合することによって、本学園独自の発展的な科学教育プログラムを実現できる機関であると自負しております。

平成22年度における新規事業としては、新たに倉敷芸術科学大学に総合医療健康センター（ヘルスピア倉敷）をオープンし、東洋医学等を取り入れた施設として地域に開放するとともに記念講演会を開催しました。

また、生命動物教育センターを設置し、好適環境水を活用した実習を開始しました。

次に、学園創立50周年事業として、記念館新築の着工、創立者の銅像制作、寄付金募集等を計画通り遂行しました。

教学関係については、各設置校とも新学科、新コースの設置、改組、定員の適正化、魅力ある学科編成に取り組みました。大学においては、リメディアル教育、初年次教育、キャリア教育等を取り入れたカリキュラム編成について検討を重ね、学士力の向上を図るとともにFD活動を強化して学生の満足度の向上に努めました。

中学校、高校においては中高一貫教育の成果が結実し、東京大学、有名大学への合格を果たしました。専門学校においては、特色ある教育の一層の充実に努めました。さらに、国際交流にも積極的に取り組み、多数の留学生を受け入れました。

学園にとって、これからの数年間が生き残りのための正念場でありますので、各設置校ともに、建学の理念のもと独自の教育研究構想の具現化に努めました。